平成四年三月

蟹江町歴史民俗資料館

年報

第十二冊

目次

一、「沿革誌」より……1
二、事業概要……2
三、資料の収集・保管……3
四、展示……27
五、調査・研究……29
六、情報提供……31
七、教育普及……31
八、庶務報告……52
九、文化財保護……53
公開講座要約―尾張の殿様……55
文化財研修会資料……左1

公開講座要約
― 尾張の殿様

講師　林　董一

尾張の殿様と言う題ですが、江戸時代の殿様の一般的なお話をしたいと思います。

尾張の殿様は、御三家と言って、江戸時代三つの親藩の一つで、紀州・水戸・尾張、この三つの話になると思います。

殿様のお話の前に、一般的な大名のお話をします。大名はすばらしいように思いますが、そうでなく、大名の第一条件は一万石以上ある事です。これは表高であり、干拓等で新田を作って土地がふえても表高は変らないのが大原則であり、表高に対して今で言う税金がかかってくる。それによって勅使の接待等をする。木曽三川の工事も、薩摩藩の税金で行なったのである。薩摩藩は、この工事で莫大な金を使ったのである。それ故、大名は出来るだけ新田を開発して実収高をふやすようにする。即ち今で言う二重帳簿です。実収高は出来るだけ秘密にする、これを内高と言う。表高を少なくして内高を多くすれば、収入は楽になる。尾張藩は表高が六十二万石、幕末においては内高が九十万石だから、三十万石位脱税高があった。このため大へん裕福であった。最高の裕福藩は奥州の津軽家であった。表高四万六千石、実収高は幕末において三十二万石であった。あまりにもひどすぎるため、幕府が四万六千石から十万石に上げた事もある。尾張は三十万石の差があり非常に裕福であった。それに対して、極めてきびしい所もあった。水戸家は表高が三十五万石実収高は五万石に過ぎず、大へん貧乏していた。水戸家は、御三家として付き合わなければならないから大へんであった。紀州家もそれほど裕福でなく、尾張家が一番裕福であった。

第二条件は将軍の直臣である事です。二つの条件が必要であるが、この二つの条件にあてはまらないのが二件ある。一つは下野・喜連川氏五千石・足利家の子孫であるからである。もう一つは松前（北海道）は無高であるが、鮭で税のかわりにする。松前を無高ではかわいそう

尾張の天王信仰について

1 牛頭天王と御霊神仰.

(1) 牛頭天王信仰の成立と展開.

・武塔天神と牛頭天王 ＝ インドでは同一, 祇園精舎の守護神.

＊武塔天神は南海に妻を求め, 途中にて, 蘇民将来に茅の輪を与え, 疫疫除けの法を教える(『釈日本紀』備後国風土記逸文) 『釈日本紀』は鎌倉時代

・天刑星と牛頭天王＝中国で習合. 天刑星は仏教暦(『宿曜経』)では, 牛頭天王が南海の龍神の姫に生ませた八王子の1.(中国では八将神という). 天刑星は唐代, 妖星とみられ, のち駆疫神となる(季節の変目に邪鬼などを喰い殺す).

＊日本では, 草戸千軒遺跡, (中世)から「阿天刑星」木札出土.

＊平安末～鎌倉期 ― 牛頭天王らを食い殺す(『地獄草紙』益田家本).

＊鎌倉末～ ― 下生して, 牛頭天王となる(『三国相伝陰陽輪轄蠱毒内伝金烏玉兎集』)

・行疫神(こうえきしん, ぎょうやくしん)と牛頭天王＝日本で習合.

(2) 御霊信仰と天王祭り.

・御霊会と祇園社＝貞観4年(862)の夏～秋, 疫病が蔓延, 翌年, 神泉苑で御霊会を設ける. このとき, 崇道天皇以下六柱(八柱)の怨霊が顕現する(『三代実録』). 伝一牛頭天王として八坂郷に祇園社を祀る(祇園社は明治維新の神仏分離で八坂神社となる).

・御霊の祭り＝天慶元年(938), 京の町々の辻に男女一対の木像を立てて供養する. これを御霊神, 疫神(ふさなどのかみ)といった(『本朝世紀』). → 道祖神・塞の神的性格.

天慶5年(942)には, 菅原道真の御霊を北野の旧雷神社に祀る(北野天満宮).

＊不慮の死者 → 怨霊 → 祟り＝都市生活の中での流行病と飢餓.

＊悪神, 行疫神 → 封じ込める → 川に流す → 漂着地に除疫の霊力がそなわる. ＝ 天王信仰.